様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養専門課程	英語科	夜・通信		160 時間	※
	日本語科１年	夜・通信		80 時間	※
	日本語科１．５年	夜・通信		120 時間	※
	日本語科２年	夜・通信		160 時間	※
	国際文化科（進学１年コース）	夜・通信		80 時間	
	国際文化科（進学２年コース）	夜・通信		160 時間	
ビジネス専門課程	国際ビジネス科（国際ビジネスコース）	夜・通信	819 時間	160 時間	
	国際ビジネス科（国際キャリアコース）	夜・通信	1,224 時間	160 時間	
	国際ホテル科	夜・通信	1,224 時間	160 時間	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ＷＥＢにて公開　「高等教育無償化に係る書類等」内に記載
URL：https://www.fflc.ac.jp/information/

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由） 主な授業科目内容が語学もしくは進学対策なので、実務経験を授業内容に取り入れるのは困難であるため。

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ＷＥＢにて公表　　URL：https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社西日本硝子センター 代表取締役社長	令和７年４月１日～令和 11 年３月 31 日	学校諸規則の制定等、法人業務相談機関としての役割
非常勤	野田税理士事務所 所長	令和７年４月１日～令和 11 年３月 31 日	資産の運用や重要な設備の購入等、法人業務相談機関としての役割
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「高等教育無償化に係る書類等」内に記載

授業計画書の公表方法	

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に記載

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） ・履修科目を成績評価基準に基づき A～F で評価したものを数値化、 　A（４点）B（３点）C（２点）D（１点）F（０点） ・全科目の合計点・平均値（GPA）を算出する。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	ＷＥＢにて公表　　URL：https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に記載
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 各科とも（第４条）成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。 「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第１０条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に記載	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ＷＥＢにて公表　　URL：https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「成績評価」内に記載

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	福岡外語専門学校
設置者名	学校法人福岡成蹊学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	WEB にて公開　https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載
収支計算書又は損益計算書	WEB にて公開　https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載
財産目録	WEB にて公開　https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載
事業報告書	WEB にて公開　https://www.fflc.ac.jp/information/
監事による監査報告（書）	WEB にて公開　https://www.fflc.ac.jp/information/ ※「事業報告書」内に記載

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	英語科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1700 単位時間／単位	1173 単位時間/単位	1513 単位時間/単位	68 単位時間/単位	単位時間/単位	68 単位時間/単位
			2754 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
100 人	85 人	1 人	13 人	5 人	18 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。 福岡外語専門学校シラバスガイドライン https://www.fflc.ac.jp/information/
成績評価の基準・方法
（概要） 成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。 福岡外語専門学校学習評価に関する規定 https://www.fflc.ac.jp/information/
卒業・進級の認定基準

（概要）
成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。
「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第7条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。
福岡外語専門学校学習評価に関する規定
https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）
・独立行政法人日本学生支援機構による奨学金制度
・海外提携校との交換留学生制度

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
41人 （100%）	7人 （17.1%）	19人 （46.3%）	15人 （36.6%）

（主な就職、業界等）
旅行会社、空港勤務、ホテル業界、英会話講師

（就職指導内容）
クラス担任制による面談実施、会社説明会開催、求人案内紹介、インターンシップ等

（主な学修成果（資格・検定等））
実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、日本語ワープロ検定、情報処理技能検定試験（表計算）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
104人	15人	14.4%

（中途退学の主な理由）
進路変更、体調不良による退学

（中退防止・中退者支援のための取組）
個人面談で個々にサポート、カウンセラーの配置、出席率低下時の早期フォローアップ実施

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	国際文化科（進学１年コース）		

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
１年	昼	850 単位時間／単位	646 単位時間/単位	1122 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1768 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20 人	58 人	58 人	（内数 6）人	（内数 18）人	（内数 24）人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。

福岡外語専門学校シラバスガイドライン

https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）

成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。

「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）

大学院進学指導、日本人との交流会、ワークショップの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
53 人（100%）	49 人（92.4%）	1 人（1.9%）	3 人（5.7%）

（主な就職、業界等） 進学を主とする
（就職指導内容） 希望者がいれば、個別指導
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本留学試験、日本語能力試験
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67 人	4 人	5.97%
（中途退学の主な理由） 進学早期決定、帰国、進路変更、体調不良による退学		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を行う。 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	国際文化科（進学２年コース）	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1700 単位時間／単位	850 単位時間/単位	2006 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2856 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
100 人	47 人	47 人	（内数 6）人	（内数 18）人	（内数 24）人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。

福岡外語専門学校シラバスガイドライン

https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）

成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。

「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）

大学院進学指導、日本人との交流会、ワークショップの実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
7 人（100%）	7 人（　100%）	0 人（　0.0%）	0 人（　0.0%）

（主な就職、業界等） 進学を主とする
（就職指導内容） 希望者がいれば、個別指導
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本留学試験、日本語能力試験
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35 人	8 人	22.9%
（中途退学の主な理由） 進学早期決定、帰国、進路変更、体調不良による退学		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を行う。 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	ビジネス専門課程	国際ビジネス科 （国際ビジネスコース）	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1700 単位時間／単位	799 単位時間/単位	1122 単位時間/単位	136 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2057 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
（170 内数） 人	219 人	219 人	（内数 10） 人	（内数 19） 人	（内数 29）人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。

福岡外語専門学校シラバスガイドライン

https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）

成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。

「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）

日本企業へのインターンシップ、行政書士による就労ビザ取得講座の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 （100%）	1 人 （　4.4%）	19 人 （　82.6%）	3 人 （　13.0%）

（主な就職、業界等） 空港、運輸、ホテル、人材派遣、製造、小売業界
（就職指導内容） クラス担任制、履歴書作成や面接指導、SPI 対策授業、学校での会社説明会の実施
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験　日本留学試験　情報処理技能検定ワード/エクセル　BJT ビジネス日本語能力テスト
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
139 人	6 人	4.3%
（中途退学の主な理由） 早期就職、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	ビジネス専門課程	国際ビジネス科 （国際キャリアコース）	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1700 単位時間／単位	884 単位時間/単位	1190 単位時間/単位	136 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2210 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
（170 内数） 人	21 人	21 人	（内数 10） 人	（内数 19） 人	（内数 29）人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。

福岡外語専門学校シラバスガイドライン

https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）

成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。

「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）

日本企業へのインターンシップ、行政書士による就労ビザ取得講座の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 （100%）	1 人 （　20.0%）	4 人 （　80.0%）	0 人 （　0.0%）

（主な就職、業界等） 建設業、運輸業、サービス業、小売業
（就職指導内容） クラス担任制、履歴書作成や面接指導、SPI 対策授業、学校での会社説明会の実施
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験　日本留学試験　情報処理技能検定ワード/エクセル　BJT ビジネス日本語能力テスト
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	2 人	10.0%
（中途退学の主な理由） 早期就職、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	ビジネス専門課程	国際ホテル科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1700 単位時間／単位	1462 単位時間/単位	544 単位時間/単位	128 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2134 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80 人	82 人	82 人	6 人	12 人	18 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。
福岡外語専門学校シラバスガイドライン
https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）
成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。
福岡外語専門学校学習評価に関する規定
https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）
成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。
「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。
福岡外語専門学校学習評価に関する規定
https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）
日本企業へのインターンシップ、ホテルでの実務研修、ホテル管理システム演習

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
3 人 （100%）	0 人 （　0.0%）	3 人 （　100.0%）	0 人 （　0.0%）

（主な就職、業界等） ホテル・旅館業
（就職指導内容） クラス担任制による面談実施、会社説明会開催、求人案内紹介、インターンシップ等
（主な学修成果（資格・検定等）） クラス担任制、履歴書作成や面接指導、SPI 対策授業の実施、学校での会社説明会の実施
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50 人	0 人	0.0%
（中途退学の主な理由） 早期就職、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	日本語科 (1 年コース)		

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	850 単位時間／単位	1000 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1000 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20 人	26 人	26 人	(内数 23) 人	(内数 17) 人	(内数 40) 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。

福岡外語専門学校シラバスガイドライン

https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）

成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。

「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）

日本人学生との交流会、日本語能力試験対策、進路指導の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 (100%)	1 人 (6.3%)	5 人 (31.2%)	10 人 (62.5%)

（主な就職、業界等） 海外から入学し日本語を学ぶコースのため、卒業後は大学・専門学校への進学が主
（就職指導内容） 希望者がいれば、個別指導
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験、J-TEST
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	3 人	11.5%
（中途退学の主な理由） 就職、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	日本語科 (1.5 年コース)		

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼	1275 単位時間／単位	1500 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1500 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
130 人	61 人	61 人	(内数 23) 人	(内数 17) 人	(内数 40) 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。

福岡外語専門学校シラバスガイドライン

https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）

成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）

成績評価基準をもとに履修科目を A～F で評価し、各科目に F 評価がない者に卒業を認める。

「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。

福岡外語専門学校学習評価に関する規定

https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）

日本人学生との交流会、日本語能力試験対策、進路指導の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38 人 (100%)	26 人 (68.4%)	7 人 (18.4%)	5 人 (13.2%)

（主な就職、業界等） 海外から入学し日本語を学ぶコースのため、卒業後は大学・専門学校への進学が主
（就職指導内容） 希望者がいれば、個別指導
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験、J-TEST
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	3 人	9.1%
（中途退学の主な理由） 就職、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	日本語科 (2年コース)	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700単位時間／単位	2000単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2000単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
130人	164人	164人	(内数23)人	(内数17)人	(内数40)人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
シラバスは授業を担当する教員が各自作成し、それぞれの科内の教員による検討を経た後、教務会議で決定する。「福岡外語専門学校シラバスガイドライン」に沿って各年度の２月末までに完成させ、３月から本校のホームページで公表する。
福岡外語専門学校シラバスガイドライン
https://www.fflc.ac.jp/information/

成績評価の基準・方法

（概要）
成績は、定期試験・平常点・出席状況を総合して評価し、その後職員会議にて審議の上、学校長の最終判断により評価する。各科における成績評価基準は、「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第４条　成績評価）にて定め、学校ホームページにて公表。
福岡外語専門学校学習評価に関する規定
https://www.fflc.ac.jp/information/

卒業・進級の認定基準

（概要）
成績評価基準をもとに履修科目をA～Fで評価し、各科目にF評価がない者に卒業を認める。
「福岡外語専門学校学習評価に関する規定」（第７条　卒業）にて各科の卒業認定の条件を定め、学校ホームページにて公表。
福岡外語専門学校学習評価に関する規定
https://www.fflc.ac.jp/information/

学修支援等

（概要）
日本人学生との交流会、日本語能力試験対策、進路指導の実施

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他

62 人 （100%）	39 人 （　62.9%）	5 人 （　8.1%）	18 人 （　29.0%）
（主な就職、業界等） 海外から入学し日本語を学ぶコースのため、卒業後は大学・専門学校への進学が主			
（就職指導内容） 希望者がいれば、個別指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験、J-TEST			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
126 人	8 人	6.3%
（中途退学の主な理由） 就職、帰国		
（中退防止・中退者支援のための取組） 連続して欠席している学生に関しては自宅訪問を実施 月次で出席率を把握し、出席率の悪い学生に関しては個人面談を実施		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
英語科	100,000 円	850,000 円	90,000 円	
国際文化科	80,000 円	650,000 円	100,000 円	
国際ビジネス科	80,000 円	650,000 円	100,000 円	
国際ホテル科	80,000 円	650,000 円	100,000 円	
日本語科	80,000 円	650,000 円	66,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

URL：https://www.fflc.ac.jp/information/

学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）

本校の教育活動全般に関して学校長に助言することを目的とする。学校運営・学修成果・教育環境・国際交流などの学校の取組における学校自己評価に対して意見をもらい、その外部の意見を職員に還元、学生の満足度を高めるために、学校の取組の改善に資する。副校長を統括責任者として、教育活動・学習成果・学生支援については、新年度から学校自己評価表記載の改善方策を実施。教育環境・受入募集については状況に応じて年度後半にむけ改善方策を実施する。

評価委員：6 人（業界、卒業生、保護者、地域、校長等進路担当）

学校関係者評価委員会：年 2 回実施

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
福岡外語専門学校同窓会　副会長	令和７年４月１日～ 令和８年３月３１日	卒業生
有限会社キューエスエヌ　代表取締役	令和７年４月１日～ 令和８年３月３１日	保護者
福岡海星女子学院高等学校　副校長	令和７年４月１日～ 令和８年３月３１日	進路担当者
トリゼンフーズ株式会社　代表取締役会長	令和７年４月１日～ 令和８年３月３１日	地域住民

学校関係者評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

URL：https://www.fflc.ac.jp/

第三者による学校評価（任意記載事項）

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

URL：https://www.fflc.ac.jp/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H140313000038
学校名（○○大学 等）	福岡外語専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人福岡成蹊学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		30人（－）人	25人（－）人	33人（－）人
内訳	第Ⅰ区分	16人	18人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				33人（－）人

（備考）

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	―	―	―
計	―	―	―
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	0人	0人	0人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	0人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	―	0人	―
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	12人	―	―
計	14人	―	―
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。